

クロ・ド・ヴージョを訪ねて



写真1:シャトー・デュ・クロ・ド・ヴージョ
ブルゴーニュ利き酒騎士団の本部

佐多商會はこのたび、「栄光の3日間」と「ボジョレー・ヌーヴォー」ブルゴーニュ／パリ9日間の旅を企画催行しました。これは、フランスのワイン祭りの中で最も有名なブルゴーニュ地方のル・トロワ・グロリューズ(栄光の3日間)と呼ばれる、大きなイベントに参加する旅行です。

栄光の3日間

このお祭は、例年11月の第3土曜日からの3日間に開催される色々な行事からなっています。まず土曜日の夜、利き酒騎士団(*)所有のシャトー・デュ・クロ・ド・ヴージョ(写真1)を会場にして行われる、新会員の叙任式と晩餐会。日曜日は、1859年から始まった、ボーヌ慈善施療院(写真2)維持のための新酒の競売会。さらに月曜日は、白ワインで有名なムルソー村での、愉快で気取らぬ昼食会。ここでは、ワイン生産者や取引業者がそれぞれ自慢のワインを持ち寄ります。

これら3つの行事はどれも、ブルゴーニュだけで味わえる温かいもてなしと、楽しい雰囲気、本当に来てよかったという気持ちにさせてくれます。またボーヌの町ではこの3日間、時代物の衣装や昔の軍服を着た人たちの行列、プラスバンドの行進、旧式の大砲の大きな音などによって、お祭り気分はいやが上にも盛り上がります(写真3)。

さて、今回の旅行で最も印象に残った体験は、11月16日、土曜の夜の晩餐会に参加したこと。ちなみにこのような会は年に17回行われ、それぞれに主題がついています。年初の会は必ず1

月の第4土曜日、ぶどう栽培の守護聖人サン・ヴァンサンに捧げられることになっています。この行事はワイン生産者にとって最も重要なもので、ワインの都ボーヌは民族衣装で着飾った行列で賑わいます。

その次に盛大な集まりが、この晩餐会なのです。その年の収穫も終わり、ワインの仕込みも一段落して人々は満ち足りた気分になる時期でもあり、外国からの参加者にも人気があります。当夜は利き酒騎士団会員とそのゲスト、正装したワイン業者たち600人が、会場をいっぱいにします。

晩餐会に先立ち、ブルゴーニュワインの普及に貢献して新会員に推薦された男女が、称号授与の式典に臨みます。これは大変に格調高いものです。高々と開会を告げる大げさな楽隊の演奏につれ、赤いベルベットの派手なローブで着飾り、格式ばった帽子をかぶり、利き酒用のカップ「タート・ヴァン」を首にかけた評議員たちの登場で儀式が始まります(写真4)。そして国別に名前が呼ばれ(今回、日本からの新会員は2名)、ユーモラスな口ぶり、いかにこの人物が貢献したかが述べられます。さらに、ぶどうの樹で作られた杖で両肩を叩かれ、赤と黄色のリボンで飾られた利き酒用のカップを首にかけられ、評議員長から祝福のキスをもらいます。そして記帳を終え、やっと解放されるのです。

式典の後は広い宴会場に移ります。メニューは豪華でクラシックなブルゴーニュ風。6つのコースに5種類のワインが注がれます。ステージでは次々とユーモラスな演説や、ブルゴーニュ・カデット合唱団のワインの歌が賑やかに続きます。

そして、ひとつのコースが終わるごとに、客席の全員が両手を高くかざし、ワイングラスを持つしぐさで一斉に「パン・ブルゴニオン」(いわばブルゴーニュ音頭)を合唱します。それを合図に次の料理が出されます。その間、ワインはもちろん飲み放題。食後には当地のブランデー「マール・ド・ブルゴーニュ」が出されます。すべてのサービスが終わると、人々はナブキンを頭上で振り、別れを惜しみながらお開きとなります。その時はすでに翌朝の1時にもなっていました。まさに時間を忘れさせ、しかも一生忘れられぬひとときでした。

ぶどう園、ワイン、そして

美しいシャトー、クロ・ド・ヴージョ

それでは、この大宴会の会場になっているクロ・ド・ヴージョの城、すなわちブルゴーニュワインの歴史上、切っても切れない信仰と、ワインづくりとの深い関係から生まれた、このシャトーについてご説明しましょう。

1098年、クリュニーのモレーン修道院の院長ロベールと10数名の同志によって、シトーの荒野に新修道院「厳シトー会」が創立されました。1110年シトー会は、信心深い人たちから土地を寄進されます。ぶどうを栽培するうえで、フランスのどこを探しても他にないような理想的な、コート・ドールの急斜面の「ヴージョ」でワインづくりを始めます。

その後1330年代になり、シトー会の修道士たちは50.59ヘクタールの、現在も変わらない広さのぶどう畑を大きな石の塀で囲ってしまいました。「クロ・ド・ヴージョ」の誕生です。すでにその頃、ヴージョで作られるワインの品質の良さは広くヨーロッパ各地で評判になっていました。これらは主に王侯貴族に捧げられていましたが、とりわけローマ教皇がアヴィニオンにおられた間(1309～1377)、修道士たちは一番良い場所から収穫し作られた最高のワインを毎年教皇や枢機卿用として蓄え、奉納していました。後に彼らはローマに帰るのを、「ローマにはクロ・ド・ヴージョはない、クロ・ド・ヴージョなしではとても幸せな生活はできない」と頑強に拒んだと伝えられています。

ちょうどその頃、修道院では、宿泊施設やワインづくりのためのスペースが狭過ぎるので、



写真2:ボーヌ慈善施療院



写真3:「栄光の3日間」のボーヌの町
時代物の衣装や軍服を来た人たち
旧式の大砲の音が凄



写真4：利き酒騎士団の評議員たち
新会員叙任式の開会を告げる

新しい建物の建設の必要に迫られました。それで1372年、このシャトーが現在の場所に完成しました。ただし、今ある建物自体は16世紀に建てられたものです。

1789年フランス大革命の結果、シトー会の大きな富にも影響が及びます。1790年2月、革命政府は修道院のあらゆる財産を没収し競売にかけます。その時、クロ・ド・ヴージュのぶどう園はパリの材木商人が買い取りました。しかしワイン作りは、修道士のセラーマスターとしては最後の人、ドン・ゴブレが続けていました。1800年、当時の第一執政官ナポレオンがイタリアからの凱旋の途中、ディジョンに滞在しました。その時ナポレオンはかの有名なクロ・ド・ヴージュが飲みたくなり、使いを出して、何本か持って来るよう命じました。ところがその使いの士官にドン・ゴブレは言ったのです。「私は良く熟成した古い極上のクロ・ド・ヴージュを持っている。もしお前の主人がそれを飲みたいのなら本人自ら取りに来るよう帰って言いなさい」と。

現在、ナポレオンがクロ・ド・ヴージュを訪れたという記録は残っていないので、恐らく、途中のシャンペルトンで間に合わせ、それ以来ナポレオンのワインはシャンペルトンという伝説が生まれたのではないのでしょうか。

その後、ぶどう園クロ・ド・ヴージュの持ち主は何人かわかり、1889年、ある投機家と5人のワイン仲買人との間で6つに分割されることになりました。さらに2年後には持ち主は15人に増え、畑は細分化されていきます。ちょうどその頃、持ち主の一人、M・ボケ氏が部分的に傷んでいたシャトーを個人で買い取り、完璧に修理を施しました。しかし1920年の彼の死後、畑の分割はさらに進み、現在オーナーは80人にも及んでいます。その生産量は1988～1992年の平均で年産232,800本になります。

なお、クロ・ド・ヴージュの美しいシャトーは1944年11月にブルゴーニュ利き酒騎士団が買い取り、その本部が設置されています。

ワインと利き酒騎士団

クロ・ド・ヴージュのぶどう園はブルゴーニュの特級畑の中でも変化に富んだ土壌をもち、6種類の違った土で形成されています。なだらかな勾配が国道沿いの低いところまで広がるぶどう

畑は場所によって3つに分けられます。頂部は勾配が急で水捌けが良く、グラン・クリュの名に値する極上のクロ・ド・ヴージュができます。一方、裾の畑は水捌けが悪いので湿っぽく、地面がフラットで春先の霜や、雨の多い年はうどん粉病にかかりやすい弱点があります。できるワインは水っぽく、力がなく乾燥した年だけまあまあのワインになります。そして、中腹のワインは、ちょうど上と下の中間の品質になります。しかし、最終的なワインの品質は畑の位置だけでなく、ぶどうの樹齢、剪定の仕方、メーカーの技術にもよります。そして何より大事なものは有能で熱心な生産者と、能力の劣る熱意のない生産者ではワインの品質に大きな違いができるということです。したがってワインを選ぶ場合、生産者の評判を考慮することが非常に重要です。

なお、利き酒騎士団の会は1934年にG・フェブレとC・ロディエの2人の呼びかけで創立されました。その頃世界は大規模な不景気から立ち直れず、ヨーロッパはファシストの台頭で、今にも戦争になりそうな怪しい雲行きでした。当然ワインの売れ行きも悪く、ブルゴーニュの酒蔵は在庫がいっぱいたまって、リシュブールなどという特級ワインまでがリヨンのカフェで安い値段でグラス売りされていました。そこで、我々のワインを誰も買ってくれないのなら、いっそ友達を呼んで一緒に飲んでしまおうというのが最初の発想でした。現在は伝統的な会やお祭りを催し、ブルゴーニュワインの人気をさらに高め普及させようとしています。

*正式名称 La Cofrérie des Chevaliers du Tastevin シュヴァリエ・デュ・タートヴァン(利き酒騎士団)として知られる、ブルゴーニュワインの普及推進団体。現在、プレステージの高い団体として非常な成功をおさめ、世界に大勢の会員をもち、日本でも1995年1月に支部が結成された。

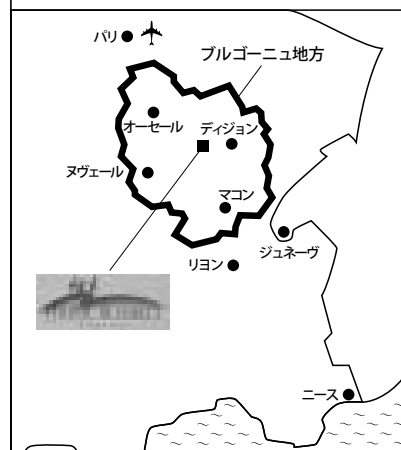
(横山弘和 / ヴィタリテ事業部、元ホテルオークラ ソムリエ)



Château de Chailly / シャトー・ドウ・シャイイ

ブルゴーニュへようこそ。

中世がいまだに息づいているブルゴーニュにいらっしやいませんか？数々の銘酒を生み出すぶどう畑、グルメレストランの数々、中世そのままの街並、美しく広がる大地や、小さな村々、豊かな生命力と「はだのぬくもり」を感じる地方、それがブルゴーニュです。



お問い合わせ↓
(株)佐多商会ヴィタリテ事業部 担当：岩沢
Tel. 03 3582 5087